

校長室だより

第9号

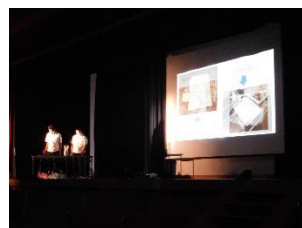
柏原市立柏原中学校
校長 石田 智
令和6年10月8日（火）発行

文化祭特集号

体育祭の興奮も冷めやらない先週の10月4日（金）、本年度の文化祭が行われました。限られた準備期間でしたが、生徒たちは2学期開始と同時に体育祭と並行して練習を重ねてきており、当日はその集大成となりました。今回はその様子をお伝えいたします。

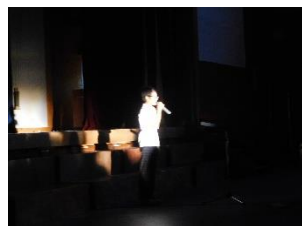
〇開会～くすのき学級

生徒会代表による堂々とした開会の挨拶の後、まず舞台発表のトップバッターはくすのき学級でした。今回は「身のまわりに当たり前にあるもの」ということで「紙すき」をテーマに取り組みました。紙はどうやってできているのか調べるところから始まり、最も適している材料、色の出し方など、いくつもの壁にぶつかりながら最良の方法を見つけていった過程がよく分かり、とても優れた研究発表に仕上がっていたと思います。



〇1年生

学年発表の最初は1年生でした。近鉄電車のアナウンスに見立てたオープニングに聴衆は意表を突かれ、生徒が舞台に1段ずつ上がるだけで大きな拍手が起こりました。群読から合唱、そして斉唱という流れが素晴らしく、ひとつのエンターテインメント・ショーのような構成が見事でした。歌唱、和太鼓、バンド演奏、リコーダー、ダンス、カメラなど、全員がそれぞれの役割を果たしており、「心は一つ」という目標に向かう意気込みを感じる発表でした。



〇2年生

続くは2年生の発表でした。今月末に職業体験を控えていることから、将来について考えることをテーマに、まず小さな劇をとおして今から意識していかなければならないことを明確にし、これまでの取り組みを紹介した映像をはさんで、群読から合唱へとつなげていました。「積み上げてきたことが武器になる」という歌詞のように、日頃のこつこつとした努力を自分たちの将来のために大事にしていきたいという2年生の強い意志が感じられる発表だったように思います。



〇3年生

休憩をはさんでの3年生の発表は、修学旅行について振り返る映像からスタートしました。その時々、のことが忠実に再現されており、特に被爆語り部の方のお話についての要点を自分たちの言葉で言っていたことに感心しました。続く群読と合唱はさすが3年生ということで声に厚みがあり、女子が少ないことをまったく感じさせない、バランスの取れた美しいハーモニーでした。歌詞にもあるかけがえのない仲間への思いが溢れた素晴らしい発表だったように思います。



〇吹奏楽部～閉会

舞台発表の最後を飾るのは吹奏楽部の演奏でした。最初の曲は今年の吹奏楽コンクールの地区大会で金賞を取り、府大会への進出を決めた曲でした。さすがにこなれた演奏で、出色の出来だったように思います。続く曲はみんなが知っているようなヒット曲を中心に構成され、ソロパートもふんだんに盛り込み、途中には教員によるダンスの飛び入りもあるなど、見せ場の多いものでした。アンコールを含め5曲の多彩な演奏で文化祭のフィナーレを締めくくってくれました。

演奏後は生徒会代表が全ての発表についてとても的確な講評をしてくれ、閉会となりました。



〇展示の部

柔剣道場には美術部と文化教養部をはじめ、理科、美術、家庭科、書写の授業等における作品やレポートと、各学年による展示がありました。生徒たちは昼食後、学年ごとに入場し、作品を指さしながら感想を言い合うなど、とても熱心に見学をしていて良かったと思います。

保護者の皆様方におかれましては、平日で雨天だったにも関わらず多数ご来校いただきまして誠にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。